

## 平成30年度宮城県献血推進協議会議事録

平成31年1月29日午後1時から、ホテル白萩けやきの間において、平成30年度宮城県献血推進協議会を開催した。

- |                      |   |
|----------------------|---|
| 1. 開会                | 薬務課加藤副参事兼課長補佐（総括担当）が協議会の開会を告げた。   |
| 2. あいさつ              | 薬務課安藤課長のあいさつ<br><br>薬務課加藤副参事兼課長補佐（総括担当）が、本日の出席者数が協議会条例第4条に規定されている定足数である半数を満たし、有効に成立していることを報告した。   |
| 3-①委員紹介              | 薬務課加藤副参事兼課長補佐（総括担当）が、本日出席している委員の紹介を行った。   |
| 3-②会長あいさつ            | 張替会長のあいさつ<br><br>薬務課加藤副参事兼課長補佐（総括担当）が、協議会条例第4条第1項に基づき、張替会長が議長であることを告げた。   |
| 4. 議事                |   |
| (1) 議事録署名委員の選出       | 張替会長が中川委員と金子委員を指名した。  |
| (2) 平成29年度献血推進実績について | 【以下、議事の審議状況】  |
| 張替会長                 | それでは議事に入らせていただきます。平成29年度献血推進実績について、薬務課及び血液センターから報告をお願いします。  |
| 事務局（薬務課）             | <b>【資料 冊子】『宮城県の献血』より</b><br>以下について報告した。 <ul style="list-style-type: none"><li>・平成29年度献血状況について</li><li>・平成29年度献血推進事業の概要について</li><li>・平成29年度都道府県別献血状況について</li></ul> |
| 事務局（血液センター）          | <b>【資料 冊子】『宮城県の献血』より</b><br>以下について報告した。 <ul style="list-style-type: none"><li>・平成29年度献血状況について</li></ul>   |

- ・平成29年度献血推進事業の概要について
- ・平成29年度供給状況について

張替会長

ありがとうございました。只今の説明につきまして、何か質問等ございませんでしょうか。

張替会長

3ページの血小板献血の達成率は下がっていますが、あまり問題ないのでしょうか。

事務局（血液センター）

説明が足りず、申し訳ありませんでした。血小板献血につきましては若干使用量がさがっていることもありますが、献血者数が減っていますのは、血液製剤は200mL献血を1単位として基準にしています。通常、血小板成分献血は10単位の献血をお願いしていたのですが、血小板数の多い方には一人の方から20単位献血に御協力いただきまして、それをお二人の患者さん用に分けてから医療機関にお届けするという事で、お一人の献血で二人の患者さんにお届けすることができるようになりました。これにより、人数が少なくても需要に応じた採血ができるようになったということで、血小板献血者数は減っていますが、需要にあった血液の確保ができていているという状況であります。

張替会長

ではそれに合わせて目標数を減らしてくるわけですかね、30年31年。

事務局（血液センター）

目標数は東北ブロック全体で年々減っております。

張替会長

はい、ほかよろしいでしょうか。

川面委員

県立高校の部分で、御協力いただく学校内で実施しているということで、県内の学校の一覧がここにあるのですが、こちらはやはり高校ごとの裁量で決められているということなののでしょうか。

事務局（血液センター）

はい、学校ごとに決めて頂いております。県立高校様の場合は、なかなか授業時間中にご協力頂くというのが難しい面がございますので、どうしても放課後に、時間のある生徒の方にご協力頂くということで、時間的にも短いなかで、ご協力お願いしておりますので、県立高校で実施しますと、人数的には少ないご協力ではあるんですけど、10代の献血者、若い方には、是非ご協力頂きたいと思っておりますので、このあたりは、学校教育関係者の皆様に、お力添え頂ければと思っております。

張替会長

よろしいでしょうか。その他、何かございませんか。

それでは、平成29年度の献血推進実績についてご了承頂くということで、よろ

しいでしょうか。特になければ、議事を進めさせていただきます。

(3)平成30年度献血推進  
事業及び献血推進状況に  
ついて

張替会長

「(3)平成30年度の献血推進計画及び献血推進状況について」事務局からお願いします。

事務局（薬務課）

**【資料1－(1)「平成30年度宮城県献血推進計画」及び資料1－(2)「平成30年度献血推進状況<事業実績>」】について説明**

事務局（血液センター）

**【【資料1－(1)「平成30年度宮城県献血推進計画」、資料1－(2)「平成30年度献血推進状況<事業実績>」及び資料2「平成30年度献血実績について」】について説明**

張替会長

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、何か質問はございますでしょうか。

金子委員

質問というか確認ですけれども、広報活動に関して、私事にはなるのですが、献血を二十歳から50代までしてきたのですが、50代半ばになったときに、歳のせいもあって、ヘモグロビンの値で引っかかったことがあり、その後も続けているのですが、やはりテレビCMでやっているように、「命つなぐ、むすぶ」というように、我々の世代、50代、60代というのは、どちらかというつつなぐ立場なのかなと。そうすると、今のグラフで、20代、30代がどんどん減っていて、献血している方が平成20年度から平成29年度まで、50歳から69歳の方が上昇しているというのは、ちょっとやはり危惧するところがあって、何か方法があるのかと。

CMのPRを見ていると、これは、不特定多数にPRをする点、そうして高校生の出前事業というのは、高校生に直に訴える、という形のPRになるけれども、私は献血バスでやっていますが、献血バスで実際にやった50代、60代あるいは、30代、40代の方が、極端に言えば、セールスマンになって、例えば、複数回献血クラブに入ったら、3日後ぐらいに検査結果がわかりますよ、あるいは場合によっては、社会貢献ですよ、あるいはちょっとした記念品もらえますよ、などセールスマンになって頂くというための、例えば、献血バスのところで、「PRお願いできませんか？」とリーフレットを1枚でも配る。金銭はかかるかもしれないですが、このような、地道かもしれないですが、我々の中高年が出来るPR活動といえ、下の世代、子供であったり若い世代に、特に経験者が直接PRをすることも必要ではないかと思いました。

事務局（血液センター）

ありがとうございます。ご指摘通りだと思っております、「献血して頂いたき

っかけはなんですか」というアンケートを行いますと、知人、友人、ご家族なりに誘われて、そういうことがきっかけになって、ご協力頂いて、献血大事なんだな、じゃあまたこようかなということで、複数回、献血にご協力頂くというお答えが一番多いんです。そのため、周囲の方に広めて頂くという活動に、さらに力を入れていかなければならないと思っておりますので、パンフレットもお配りしたりもやっているんですが、それが果たして、伝わるかどうかというあたりは、私どものほうでも、もっと考えていかなければならないことだと思っております。是非そのような取り組みを続けさせて頂きたいと思っております。ご指摘ありがとうございます。

張替会長

はい、貴重なご意見ありがとうございました。他にはどうでしょう。

張替会長

パンフレットはどこに配っているのですか。

事務局（血液センター）

はい、一般の方にお配りしております。

張替会長

どういうところで。

事務局（血液センター）

献血会場でお配りしていますので、献血に来て頂いた方にも、お配りしますし、献血ルーム周辺の商店街というようなところにも、出来る限り置かせて頂いているのですが、そういう場所が、あまり多くないものですから、献血会場でお配りしているのが、割合として一番多いです。

張替会長

献血に来た方に配ると、新規開拓にならないですね。

入学式とかそういうところで配ったほうが、新規開拓になるのではないのでしょうか。

事務局（血液センター）

新学期等には、大学などにも献血バスがお邪魔したりしますので、その時は、より積極的にお配りはしているんですけど、やはりこういう広報に力を入れて、皆様にご理解頂くことは、重要なことだと思っております。

加藤委員

高校生についてですが、我々として出席していますが、学校保健会とはお付き合いされていますか、養護教諭の先生方と。

事務局（血液センター）

直接的には、個々の学校にはお願い、ご相談をさせて頂いておりますが、薬務課様にも是非そちらのほうにも働きかけを、というようなご相談をしているのですが、中々、養護教諭の皆さんの集まりのところで、お時間をお取り頂くとか、是非、そういう機会を持てればと思っておりますが、現状、まだそこまでは、至っておりません。

加藤委員

学校には保健室がありますが、保健室にはもちろん生徒もですが、保護者の方が結構立ち寄られます。その時に、養護教諭の先生が献血の話を、普段から保健授業や保健指導を医療従事としてやられていますから。養護教諭の先生方の団体のほうにお話をさせていただくと、ちょっと違った動きになる可能性もある。

校長会というのは、私も校長会代表ででていますが、こういうお話を聞いても、そのときは真剣に伺うのですが、学校帰ってからほぼ伝えない、伝えるほうが珍しいぐらいです。それは何故かというと他にいっぱい用事がありますので、パンフレットをいただいても校長室のキャビネットにしまったり、もちろんそういう講演会の際に使うかなと。

高等学校というのは行事がいっぱいあります。当校もいろんな行事の時に、献血車に来て頂いて実施していますが、授業があつて忙しいから出来ないと言っているのは、面倒くさいからやりたくない、くらいの答えだという風に受け止めていただいて。言葉どおりに受け取られなくていいと思います。むしろ、行事は色々ありますから。例えば、運動会とか、文化祭とか、夏休みもあります。生徒が夏休み中に出てこないというが、部活で出てきています。また、大学進学に向けての講習会などにも出てきています。

そのようなところを捉えているのが、学校保健会、養護教諭の先生方を活用なさったらいいのではないか、というところ です。

事務局（血液センター）

どうも、ありがとうございました。

中川委員

あのほんとに、育英学園には大変お世話になって、去年、実を言うと野球部自ら献血してくれたり、学校全体で280人ほど協力してくれたのですが、本当にやはり、トップ、理事長自らですね、献血を推進して下さるとありがたく。で、宮城血液センターとしては、そういう機会を設けて頂ければ、保健の先生でもどちらでも、私ども含め色々と説明をしたり、献血をすると単に社会貢献だけではなくて、自分の健康管理にも役立ちます。今、若い女性だと4割近くが、鉄分不足で貧血の人もいます。あと、感染症、高脂血症、糖尿病の方も増えていますので、献血をするとわかりますので、そういうのも含めてですね、説明にあがりますので、そういう機会を設けて頂ければ、ありがたいと思います。県の教育委員会、仙台市教育委員会、宜しくお願いたしたいと思います。

張替会長

はい、ありがとうございました。その他、ご意見ございますでしょうか。

張替会長

はい、では、センター、薬務課の方よろしくお願いたします。

(4)平成30年度献血推進計画（案）について



それから、記念品に関しましては、私どもも献血者の皆様に、何が喜んで頂けるのかな、ということで、色々考えてはいるんですが、なかなか全ての方に、これがあるなら献血行こう、というものが、見当たらないのが実情でございます。その時々に合わせてまして、例えば、大学にお邪魔したときは、学生さんから、お腹が空いていることが多いからカップ麺がいいかな、と伺って、お配りしたりもするのですが、いつもカップ麺だとどうなのかな、とかですね。やはり、献血者の皆様のご要望を出来る範囲で、反映出来るようにさせて頂ければと思っております。根本的には、有償献血というのが、法律的には禁止されていますので、あまり高額のものをお渡し出来ないという制約はあるんですけど、そのなかで、喜んで頂けるものを、考えていきたいと思っております。

採血の針につきましては、確かに、かなり太いというイメージがあると思います。少しでも細く、ということで、以前より若干、細くしたものを使っておりますが、採血時間の制約などもございますので、普段見る注射針と比べれば太いかな、と印象は持たれると思います。その辺りも改善は出来ることは、全国的な話とはなってきますけれど、御要望に合わせて検討していかなければならないと思っております。以上でございます。

中川委員

ちょっとだけ追加させて頂くと、河北新報社にはですね、ずっと前から無料で献血バスまた献血ルームの時間など載せて頂いて、本当に感謝しています。あれを見てですね、来られる方もいまして、本当に感謝しておりますので、是非これからも。で、いろんな、特に青年会議の方が参加されていますけども、是非、血液センターにいと、そういう機会をいただければいろんな形で、献血推進をしたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。

事務局（薬務課）

薬務課からも、少し情報を差し上げたいと思います。

先ほど川面委員よりキティちゃんのグッズや乃木坂が効果的とお話し頂きましたが、宮城県でも、むすび丸を色々な事業にこれから使っていこうということで、私も献血むすび丸のピンバッジをしておりますが、こちらにレッツ 400 と書いてありまして、後ほど皆様にお配りいたしますけども、血液センターのブロック化で東北ブロックセンターができたときに、先ほども血液センターからお話がありましたけれども、全血献血について宮城県でも 400mL 献血を進めているというお話を頂きまして、仙台市と一緒にやってきたときに作り出したもので、初回 400mL 献血やって頂いた方にお配りしております。

また、「はじめよう、つづけよう献血」に載せています献血バスのイラストですが、この基本は厚生労働省で作っているけんけつちゃんだったのですが、実は、けんけつちゃんの脇が空いていたんです。本来、けんけつちゃんだけが乗っているバスだったのですが、たまたま、AOBA の献血ルームに行った際、なんだか1人で寂しいよね、と、当時の担当がアニメむすび丸のディレクターに言って、ここにむすび丸を乗せちゃおうとのことで、厚生労働省と血液センターにお話しをし

て了解を取ってむすび丸を乗せました。

ですから、いろいろばらばらに啓発のグッズなりキャラクターが出てきているけれども、なるべく融合して、協力し合えるものはし合いながら使っていきたいと思います。CMを3本お見せしましたが、若年層が集まってきて、というのを訴えるってことで第一弾、むすび丸がぴよんぴよんっと平成20年度から減っているというのを示したCMを作りましたが、20代、30代の特に女性の献血率が上がらないということで、確か、高校生や短大生などは協力いただいているのですが、その後、結婚して、出産して、忙しくてやらなくなる。しかし、子育てするようになると、自分の子供のために、親のために献血したいという気持ちが芽生えて、そういうママさんたちに訴えるものを去年作成しました。ですから、ある程度、年代に見合ったもの、効果的なものがどういう方向のものなのか、皆様からのご意見を基に、今後の事も考えて参りたいと思いますので、どうぞ引き続き、ご意見を頂ければと思います。宜しくお願いします。

張替会長

はい、ご意見ありがとうございました。その他にいかがでしょうか。

金子委員

200mL 献血、400mL 献血の話ですが、200mL 献血は基本的にリスクの問題もあって、若い方がという形になっていると思いますけれども、400mL 取ると思うと、今度体重が50kg以上ないとダメ、という制限がある。これなんかにも医学的な見地だと思いますが、Q&Aの2つ目のところで50kgの女性で約525mL失われても身体上問題ありません、と書かれていて、場合によっては、宮城県だけの話ではないと思いますけど、50kgを45kgに、もう少し緩和する方向があっても良いのではないかと思います。

ちなみに、私の家内も昔は体重計に乗らなくても取ってくれた時代があって、10年くらい前に、あなたは本当に50kgありますか、体重計に乗ってください、とシビアになって、それ以降協力できなくなったという経緯もあり、これが医学的に問題ないのであれば、45kgに緩和するっていう方向性が多少あってもいいのかな、宮城県から提案する方向もあってもいいのかなと思いました。

事務局（血液センター）

ご意見ありがとうございます。まず、200mLと400mLの献血の目標数は、医療機関で使われる血液の量に合わせて目標を定めております。全国的な傾向ですと、97%くらいが400mL献血の需要で、そういったこともありまして、200mL献血に、多くの方にご協力頂きますと赤血球製剤ですと21日間という有効期限がございますので、その間に輸血に使われずに、善意が無駄になってしまうようなことがございます。通常は医療需要の高い400mL献血を中心にお願いし、200mL献血は、需要があるときにお願いするというところで、現状では、宮城県内では10代の方と初回の方には、まず200mL献血から経験して頂こうということで、ご協力をお願いする形を取らせて頂いております。

献血の量につきましては、これは、世界的な状況もあるんですけど、200mL



献血が行われているのは日本ぐらいと聞いておりますので、医療需要との兼ね合いも含め、宮城県が発信して、国の審議会などを経て、決めていただくことになっていくと思います。宮城県ではなるべく多くの方に、是非献血にご協力頂きたいと考えて、現状では、10代の方と初回の方を中心に、200mL献血をお願いさせて頂いております。

金子委員 400mLでも、体重50kg以上で約525mL取っても問題ないとなっているのであれば、例えば、45kg以上でも400mL、なんとなくいいような気もするのですが、そういうのを軽減する方向が今後の傾向としては、あってもいいのではないかと、別に200mLをやめてもいいというわけではないんですけども。誤解がないように。

張替会長 そこは赤十字社さんに答えて頂いて。

金子委員 ま、そこまでは、はい。

張替会長 必要献血者数が、30年度は前年度でマイナスで1,000人以上、31年度はプラス4,000人で、目標の立て方にかかなり無理がありませんか。

事務局（血液センター） これは、先ほど申しましたように、原料血漿の確保目標量というのが、翌年度どのぐらい必要かという、国と血漿分画製剤の製造メーカーとの協議により決まるなかで、必要な量を国内の献血で確保するとなると、このぐらいの人数が必要ということになります。ただ、正直なところ、かなり増える見込みなので、献血者の皆様に、状況をご理解頂いて、複数回献血にご協力をと、これまで以上をお願いをしていかなければいけないと考えております。

張替会長 医療行政の問題だとは言っても、これでは、なかなか計画立てるのは、難しいですね。1,000人単位で、年ごとが変わるとするのは、これは、血液センター、大変だと思いますけど。

事務局（血液センター） ご指摘のとおり、ある程度、長期的に今後何年か、どのぐらいの目標量だという計画の立て方が出来るほうが、やはり、国民の皆様にも県民の皆様にもご理解頂きやすいと思いますし、事業を運営する側としても、やりやすいのかな、と思います。今年度は急激だったんですが、来年度以降は、それほど変動はないようですが、減ることはなく推移していくのではないかと聞いております。

張替会長 それはなんで、原料用の血漿が必要になるのですか。増量が必要なのですか。

事務局（血液センター） 血漿分画製剤の需要が増えると思われております。

張替会長 増えるんですか。

中川委員 はい、神経疾患、ギランバレーですね、あれにγグロブリンがものすごく需要が伸びていると聞いています。で、世界的にもですね、γグロブリン製剤が非常に使われて、神経疾患には治療法がないものですから、自己免疫性疾患ですね、あとそれから脊索硬化症ですか、ああいうのも今、需要が世界的にも広がってきて、日本でも適用が広がってきて、血液センターとしても非常に対応に苦労している、ということで、先生の方はその辺詳しく。

張替会長 ギランバレーってすごく希少疾患なので、それがそんなに増えてきた、ということですけど、グロブリン製剤が非常に増えているっていうのは、そうなのかもしれません。なかなか、献血事業計画を立てるのは大変だと思ったのと、それと、血小板献血の目標数が増えるのは、どの理屈なのですか。

事務局（血液センター） これは、東北六県の割り当てのなかで、まず、宮城県は、成分献血に関しましては、新鮮凍結血漿用の血漿成分献血を優先していますので、その必要量を確保した上で、原料血漿用が増えた分の血漿成分献血は、宮城県以外の五県で、多く採血することになりますので、ではその差し引きで、血小板成分献血のほうは宮城県に割り振りましょう、というような調整を加えさせて頂いております。

張替会長 そうすると、血小板の成分献血に関して、3,000人近く増やさなければいけないと、そういうことですね。宮城県では。

事務局（血液センター） はい、東北全体で1万人以上増えるなかで、宮城県は、これだけ増える、ということになります。

張替会長 なかなか難しいですね。  
正直なところ原料用のグロブリン製剤の血漿のニーズが増えた、というのは、そうなるかもしれませんが、血小板とか、赤血球のニーズというのは、少し減ってきているような気がしますけど。それでも増やす必要が。

事務局（血液センター） 血小板の需要は、全体的には減ってきておりますが、成分献血につきましては、東北ブロック六県全体で、献血者の目標数を割り振っておりますので、他の五県では、原料血漿用の血漿成分献血を増やす、ということから、宮城県は血小板成分献血の目標が増え、ブロック内の人口割合などで30%弱を占める宮城県は、成分献血全体の目標数の3割ぐらいのこの数字ということになります。過去のことを申し上げますと、宮城県では9万人以上、献血にご協力頂いた時期もございまして、400mL献血者及び成分献血者が増えてきて、献血者数が減少しても、必要な血液を確保出来ていた、ということがありますので、まずは、献血者の皆様に

は、必要性をご理解頂くというところに、力を入れていかなければいけないと思っています。

張替会長

まずは、割り当てありきなもので、血液センターさんとしては、どうもならないと思いますが、ここで議事する上で、承認しますか、と言われましたら、承認するんですけども、これ、結構無理がある計画だなと。正直言うと、1,000人、5,000人増えていって、次、何人になるのかなと、そういう目標達成するというのは、凄く大変なので、頑張ってくださいとしか言いようがないのですが、そこはちょっと医療行政として、国に無理があるのかなという気がします。

中川委員

実にその通りなんです。血液センターとしては、必要な血液をタイムリーに必ず届けるというのが責務ですので、まず需要があればですね、届けざるを得ないんですけど、本当に私自身も無理難題、いっぱいあると思っています。

でも、実を言うと、東北ブロック、かつては他のブロックから血液を大量に借りていました。でも、ここですね、今年は、自立しましてですね、東北ブロック全体で、貸し借りなしで、自立出来るようになっていまして。宮城県献血推進協議会の皆さんのおかげだと思っています。一応、色々条件は厳しいです、広いところで高齢者が多くて、人口も少ないんですけど、でも、弱音を吐かずにですね、東北ブロックで必要な血液を東北内で、採血していこうと思っていますので、ご協力宜しくお願いいたします。

張替会長

ありがとうございます。基本的にはそうですが、これだけ高齢化が進んで人口減少が急速に進むなかで、果たして頑張らましようで済むのか、というところはあります。

確かに、50kgを少し緩和する、という話もありましたけども、さらに年齢を少し緩和せざるを得ないかもしれないし、その中で頑張らましようって、少し限界があるとは思いますが。

2点ほど申し上げましたが、その他にいかがでしょうか。

千葉委員

私も献血にアエルに行かせて頂くこともありますが、やはりそこに行ったときに、かかる時間というのが、1時間以上だったりありまして、そのくらいかかるのだたらということ、お帰りになられる方を何度か見受けさせて頂いて、私もやはり、空いている時間に行こうと思って行くのですが、そのくらいかかります、だったり、混んでいたりするともっとかかります、という形でお話を受けます。ベッドに限りがあると思うので、時間がかかるのだとは思いますが、若い人たちは、あつ行ってみようと思って行くと、そのくらい時間がかかります、と言われて帰られるというのが、やはりあると思うので、行きやすい場所に確かにあるので、その辺をもっと緩和するという事は出来ないのかなと思ってお話をさせて頂きました。

事務局（血液センター）

ご指摘の通り、特に休日はお待たせしてしまうことがございまして、なんとか改善したいとは思っております。皆さんお忙しくて、ちょっと時間が空いたから献血に行こうという方が多いと思うんですけど、もし、ご都合がつくようでしたら、先ほど申しましたように、予約のシステムも新しくしましたので、是非、あらかじめご予約を頂いて、ご協力頂ければと思っております。

また、これも、皆さんお忙しいなかではあります、平日は比較的空いておりますので、特に若い方、学生の方で、もし時間に余裕がある時は、平日にお越し頂きますと、ゆったり献血をして頂けますので、学生の方、若い方は、特に先ほどのラブラッドの会員にご登録頂くようご協力をお願いしております。休日は、スペース的にもベッド数に限りがあり、お待たせしてしまい申し訳ございません。

千葉委員

いえ、ありがとうございました。このラブラッドというのも、初めて今日お伺いさせて頂いたので、青年団で集まる機会等にご周知させて頂きたいなと思いました。

事務局（血液センター）

ありがとうございます。パンフレット等、必要でしたら、お届けに伺います。

庄司委員

献血バスについて、私が所属している団体、研究会ですが、仙台市には小学校区を範囲とした社会学級というものがあります。これは、仙台市内の小学校全てにありますので、120校ほど学級があります。それぞれ皆さん活動されているなかで、献血という、そういったものの一つを学級で何か取り組むのは、非常に難しい事だとは、私自身捉えておりますが、例えば、ブロックごとに、何か授業があったりとか、あとは研究会でやっているセミナーだったり研究会だったり、そういった何か大きな授業のときに、それなりの人が集まりますので、例えばそこに献血バスを設置するとか。

社会学級だけで言えば、その地域に住んでいる成人が、対象になりますので、年齢的には、20代の人がないかなという感じで、若い方は30代から、本当に高齢者、80代の方まで、皆様いきいきと学習していますので、例えば、年齢に該当しない方ももちろんいますけども、そういったチラシだけではなく、実際に、献血までするっていう、若いお母さんの方もたくさんいらっしゃいますので、すごくそういう機会は良いのかなと思いました。

あと、11月に仙台市で開催していますPTAフェスティバルというのがありますが、私のほうも参加している一団体ではあるのですが、例えばそこでも数年前は、絆創膏とか配ったりとか、いろいろチラシを配ったり、ということで、皆さんが実際に活用している姿なんかも拝見したり、あとは実際に絆創膏を頂いたりとか、ということが過去にあったと思うのですが、例えばそこに、一緒に献血バスみたいなのもあれば、PTAフェスティバル会場ですとか、本当に若い方の参加が非常に多いイベントなので、そういうところにも、もし機会があれば、献血

バスを出して頂けると、何か効果があるのではないかと思いました。やっぱりチラシを配ることだけで終わって、またというと、皆さん正直現役で働いている方はなかなか参加しようと思っても、ちょっと献血ルームまで行くっていうのは、街中で働いている人は良いのですが、皆さん必ずそうではない方のほうが多く見られるので、土日などイベントに、もし合わせられるのであれば、是非お願いしたいと思いました。

事務局（血液センター）

ご意見ありがとうございました。皆さんお集まりになられるところに、献血バスがお邪魔して、一定の人数、ご協力頂けるのであれば、日時を調整してお伺いすることも可能でございまして、今、現状で、社会学級の皆様と、どういう形で、こちらからアプローチしたら良いのか、把握出来ていないところもありますので、今後是非、ご相談の機会等を設けさせて頂ければと思います。また、先ほど、献血セミナーの開催というお話をさせて頂きましたが、皆さんの集まりがあれば是非、献血バスをお邪魔させて頂きたいということをお話させて頂ければと思いますので、そのような機会がございましたら、ご相談させて頂ければと思います。ありがとうございます。

張替会長

はい、貴重なご意見ありがとうございました。いかがでしょうか、よろしいでしょうか。

張替会長

それでは平成31年度献血推進計画（案）のご異議、ご意見ございませんか。なければ、承認とさせて頂きます。

そのあと、特にないようでしたら、事務局のほうにお返しいたします。宜しくお願いします。

5. 閉会

加藤副参事

張替会長ありがとうございました。

みなさまには長時間にわたり熱心に御討議いただきまして、ありがとうございました。

これを持ちまして、平成30年度宮城県献血推進協議会を終了させていただきます。

審議内容を明確にするため、議事録署名人が記名押印した。

署名人

---

署名人

---